

インドネシアの高等学校美術教材について

福田 隆真*¹

On the Teaching Materials of High School Art Education in Indonesia

FUKUDA Takamasa*¹

(Received August 3, 2023)

キーワード：インドネシア、高等学校、美術教育、美術教材、独自文化

はじめに

本稿は既に発表した「インドネシアにおける芸術教育と文化形成について」(注¹)に引き続き、高等学校での美術の教材について考察する。前回は日本の中学校に相当する前期中等教育における芸術の音楽と美術の教材について考察した。本稿では日本の高等学校に相当する後期中等教育の美術の教材について述べる。インドネシアの高等学校は普通高校と専門高校があるが、ここでは普通高校を対象として述べる。

中学校、高等学校における教材や教育内容が、その後の社会人として必要なコンピテンシー重視(資質・能力)の何を重視しているのかを、具体的な教材を紹介し、明らかにする。そこには、①美術の基礎的能力の育成、②グローバル化による美術の内容、③アイデンティティーと自国の文化形成の3点が想定される。

以下に後期中等教育(高等学校)の教科書の内容を述べる。(注²)

1. 高等学校1学年美術教材

インドネシアの美術教育は「芸術」の科目の中で行われており、教科書も美術、音楽、舞踊、演劇の4科目が統合されている。そして教科書は Semester 1 と 2 の 2冊からなっている。これらの教材は 1 と 2 の Semester で 16 章からなり、美術だけでは、第 1 章、第 2 章、第 9 章、第 10 章の 4 章分である。以下にそれらの内容を紹介する。

1-1 1 学年前期

(1) 第 1 章 平面の美術作品の制作

- ・学習計画：①平面の美術作品の理解と種類、②平面の美術作品における要素と目的、③平面の美術作品制作の媒体(用具、材料、技術)、④平面の美術作品制作の過程

A 平面の美術作品：絵画、染織、彫刻、木工、陶芸の作品例をあげて、平面の美術作品の定義を考える。

B 平面の美術作品における要素と目的：①線、②外形(面と形態)、③空間、④テクスチャー、⑤色彩、⑥明暗。6 作品を例示している。

C 媒体、材料、技術：①平面の美術作品制作の媒体、②美術作品制作の用具、③美術作品制作の技術

D 平面の美術作品制作の過程

E 平面の美術作品制作の練習

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：例示してある作品は立体の表面の模様やゴッホの作品、バティックの模様、現代彫刻の金属のテクスチャー、工芸品のテクスチャーなどがあげられている。身の回りの美術工芸作品や製品などを対象として造形要素を学習するようになっている。さらには現代のコミカルなイラストも例示している。美

* 1 山口大学名誉教授

術の基礎的能力を重視している。

(2) 第2章 立体美術作品の制作

- ・学習計画：①立体の美術作品の理解、②立体の美術作品の種類、③立体の美術作品におけるテーマと機能、④立体の美術作品の美的評価、⑤立体の美術作品の制作過程。

現代彫刻や工芸などの作品を6点例示している。

A 立体の美術作品の理解

B 立体の美術作品の種類：立体作品8点例示、人形の彫刻10点例示

C 立体の美術作品の美的評価

D 立体美術作品の制作の過程：作品4点例示

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：工芸品から現代彫刻、庭園までを対象とした作品を例示し、立体作品の鑑賞機能、使用機能を解説している。美術の基礎的能力を重視している。

1-2 1学年後期

(1) 第9章 美術作品の展覧会

- ・学習計画：①展覧会の理解、②展覧会の目的、機能、利点、③展覧会の計画、④展覧会の準備、⑤展覧会の実行

2点の写真によって展覧会の展示を例示。

A 展覧会の理解

B 展覧会の目的、利点、機能

C 展覧会の計画：①展覧会の目的の決定、②展覧会のテーマの決定、③委員会の調整（委員長の決定、副委員長の決定、秘書、会計、事務部、事業部、記録・広報部、展示空間の装飾と計画部門、警備部門、作品募集と選定部門、補充装備部門等）、④日時・場所の決定、⑤活動日程の調整、⑥活動提案の調整

D 展覧会の準備：①作品の準備と選定、②展覧会の環境の準備（展示空間、机、芳名帳、ポスター、パンフレット、図録、展示用照明、音響）

E 展覧会の実行：①実行委員会の仕事、②展示空間の整理（動線、作品展示位置の調整、照明の調整）、③展覧会の報告

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：美術展覧会を実施することを想定し、詳細を計画、検討する題材である。社会人となった時に実践的に役立つ題材となっている。生活における美術の機能の一部である。

(2) 第10章 美術作品の批評

- ・学習計画：①美術作品の批評の種類を確認する、②美術作品の批評の目的を確認する、③美術作品の批評の利点を確認する、④美術作品の批評の手順と方法を確認する、⑤美術作品の批評における作品の種類、機能、主題、美的評価を確認する、⑥美術作品の批評における作品の種類、機能、主題、美的評価を表現する、⑦美術作品の批評における作品の種類、機能、主題、美的評価を比較する、⑧美術作品の批評を記述する過程で責任ある回答を示す、⑨観察結果に基づいて美術作品の種類、機能、象徴、美的価値について批評文を作成する、⑩美術作品批評の記述文を交流する。

A 批評の理解

B 批評の種類

C 美術作品批評の機能

D 批評の記述：①解説、②分析、③解釈、④評価。批評の例示を3点掲載。

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：美術作品の批評を、種類、材料、技法、用具に分けてコメントし、対象とする作品は、絵画、彫刻、工芸、イラストレーション、伝統的作品、現代美術など幅広く想定している。実際の作品を事例とし、批評の理解、種類、批評文の作成などを学習し、美術作品の鑑賞や理解のための題材となっている。

以上が1学年の内容である。

2. 高等学校2学年美術教材

第2学年の芸術の教科書は前期13章、後期12章からなり、美術は前期第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、第6章、第7章を占めている。その分、音楽、舞踊、演劇の内容が少なくなっている。後期では第1章、第2章、第3章、第4章、第5章、第6章が美術の内容となっている。

2-1 2学年前期

(1) 第1章 美術、音楽、舞踊、演劇の鑑賞

- A 美術、音楽、舞踊、演劇の鑑賞の態度の開発
- B 芸術家や文化人への共感の態度の開発
- C 社会生活における人間の文化活動の実践
- D 美術の環境の効果的な相互交流

・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：ここでは芸術を広く捉えることを重視している。芸術と文化についても触れるようにしている。

(2) 第2章 平面の美術作品の分析、理念、要素、原理、材料と技術

分析：短い題材であるが、平面作品を理念的に学習する題材である。

(3) 第3章 立体の美術作品の分析、種類、主題、機能、美的評価

分析：第2章と同様に、立体作品を理念的に学習する題材である。

(4) 第4章 対象を変更した平面の美術作品制作

- A 平面の美術作品の理解
- B 創造の目的
- C 創造の過程：①準備段階、②推敲段階、③解明段階、確認段階。

分析：デフォルメや置き換えなどの、モチーフや対象を変化させることの意味を理解する題材である。

(5) 第5章 対象を変更した立体の美術作品制作

- A 立体美術作品の理解
- B 立体美術作品の機能
- C 対象の変更
- D 立体作品の役割

分析：第5章と同じく、対象を立体作品として、変化や代替やデフォルメによって作品を創造することを理解する題材である。

(6) 第6章 美術作品における表現

- A 表現：①観察、②質問、③試行、④合理性、⑤提供

・まとめ、発展、コンピテンシーの試験、自己評価

分析：美術表現のための過程を例示している題材である。

(7) 第7章 美術における実験

- A 純粹美術：①理念的観点、②視覚的観点
- B 絵画の理解：①絵画の空間領域、②視覚要素（造形要素）：a線、b色彩、c色彩の特性、d色彩の表記、e色彩調和、f暖色と寒色、g有彩色と無彩色、h固有色と一般色。③空間、④テクスチャー、⑤形態
- C デザインの創造

D デザインの原理：①調和、②プロポーション、③リズム、④バランス、⑤強調。

分析：純粹美術から発展した美術の要素、視覚言語の解説となっている。美術の基礎を造形的に分析して理解を促す題材である。

2-2 2学年後期

(1) 第1章 美術展覧会

A 展覧会委員会、B 展覧会の提案、C 展覧会の材料、D 展覧会のマネージメント、E 検討活動、F 展覧会の評価

分析：展覧会の概要を学ぶ題材である。

(2) 第2章美術作品展の計画、実行、評価の分析

A 計画立案、B 実行、C 展覧会事後、D まとめ、E 発展

・コンピテンシーの試験

分析：展覧会実施の概要を学ぶ題材である。

(3) 第3章 美術作品の理念、手順、機能、有名人、美的評価の分析

A 理念、B 手順、C 機能、D 有名人、E 美的評価

分析：美術作品を理解するための具体的方法を解説している題材である。

(4) 第4章 創作結果の平面、立体の美術作品の発表

A 展覧会の作品の分類、B 展覧会作品の選定、C 展覧会運営、D 飾り付け、E 展覧会開催

分析：展覧会の具体例を解説している。

(5) 第5章 記録された資料における作品の種類、機能、主題、有名人に基づいた美術作品の分析、

A 種類、B 機能C 主題、D 有名人、E 美術作品の研究の役割

分析：資料を基にして美術研究をする例を解説している。

(6) 第6章 美術の現象

A 前近代の美術：①原始時代、②自然主義、③リアリズム、④装飾主義

B 近代美術：①ポップアート、②オブティクアート、③コンセプチュアルアート、④現代美術

C ポストモダンの美術：①ポストモダニズムの美術作品、②ポストモダニズムの美術言語

分析：近代美術の事例解説をしている題材で、主に西洋美術を採り上げている。

以上が2学年の内容である。

3. 高等学校3学年美術教材

3学年の教科書は前期、後期で16の章があり、そのうち美術は第1章、第2章、第9章、第10章の4章分となっている。

3-1 3学年前期

(1) 第1章 平面美術作品の鑑賞

・学習計画：インドネシアの現代の絵画の観察6点

A 平面の美術作品の種類

B 平面の美術作品の美的評価：4点の作品例示、カンディンスキーとインドネシアの作品

C 平面の美術作品の制作媒体

D 平面の美術作品の制作

- ・コンピテンシーの試験、相互評価、まとめ、発展

分析：平面の美術作品の理解を深めるための題材で、ほとんどインドネシアの現代の作品を採り上げて解説している。西洋美術の影響を自国で吸収、消化した独自の作品が見られる。

(2) 第2章 立体美術作品の鑑賞

- ・学習計画：インドネシアの立体作品の観察6点

A 立体美術作品の種類、主題、機能：インドネシアの現代美術の10点の作品解説

B 立体の美術作品の美的評価

C 立体の美術作品の制作

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：第1章と同じ考え方で立体作品の理解を深めるものである。例示された作品はほとんどインドネシアの伝統的な作品と現代の作品である。

3-2 3学年後期

(1) 第9章 美術作品展覧会

- ・学習計画：美術展覧会の種類、目的、機能、利益、展覧会の計画、準備、実行

A 展覧会の目的、利益、機能、B 展覧会の計画、C 展覧会の準備

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：展覧会の開催のための具体的な解説をしている。

(2) 第10章 美術批評

- ・学習計画：テーマ、種類、機能、作品の評価、美術家、美術批評を書く

A シンボル、種類、機能、美的評価

B 美術の有名人：インドネシア人の作家として、ラデン・サレ、アフアンディー、スジョジョノ他、外国の作家として、レンブラント、ゴッホ、アンディー・ウオホール、カンディンスキー等を対象としている。

C 批評を書く

- ・コンピテンシーの試験、まとめ、発展

分析：これはインドネシアの作品、外国の作品の両者を対象として、美術の批評を書くための題材である。批評を書くことで、分析、理解を深めることができる。さらに外国の作品と並行してインドネシアの作家や作品を採り上げることで、自国の美術を意識することを目的としている。

以上が3学年の内容である。

4. 高等学校美術教育のコンピテンシー

前述までの教科書教材は教育課程に基づいて作成されている。そこではコンピテンシーの育成が記載されている。高等学校の美術のコンピテンシーについては、中学校と同様にコア・コンピテンシーとベーシック・コンピテンシーに分けて記載されている。(注3)

カリキュラムの目的には以下の4つのコンピテンシーを含んでいる。それらは、精神的態度、社会的態度、知識そして技能である。これらのコンピテンシーはカリキュラムを通しての学習、相互カリキュラムによる学習、特別カリキュラムの学習を通して達成される。そして、精神的態度とは、信奉する宗教の教えを身に付けて実践することである。社会的態度とは、正直な行い、責任感、相互協力、寛大、平和を規範とするなどの、社会的に生きていくための礼儀や努力、鍛錬を意味している。

これらを基盤として、コア・コンピテンシーの知識については、人類や民族、国家の遺産を有する自然科学、工学、美術文化、人文科学の事実や理念としての知識を理解し、適応させ分析することである。

そして技能面のコア・コンピテンシーは、学校や他の情報源から学んだことに従い、具体的領域（使用、解析、組み合わせ、改造、作成）と抽象的領域（描く、書く、作るなど）において実行する。

次に美術のベーシック・コンピテンシーの知識としては次の内容がある。

- ・美術作品の制作において、理念、要素、原理、材料、技法を理解する。
 - ・美術作品を、種類、主題、美的評価に基づいて理解する。
 - ・美術作品展の理念と手順を理解する。
 - ・美術批評の理念、方法、機能を理解する。
- また技能としては以下がある。
- ・モデルを見て、いろいろな媒体と技法で平面の美術作品を制作する。
 - ・モデルを見て、立体作品を制作する。
 - ・模範に従って、平面、立体の作品展を行う。
 - ・聞き取りや記録によって美術作品の批評文を作成する。

5. 高等学校美術教育の特性

以上が、高等学校の具体的教材とそれらの基盤となる教育課程である。

現在、インドネシアの高等学校進学率は98%以上（2020年）となっており、ほとんどの国民が高等学校に進学している。また、大学への進学率が27%（2016年）である。大学進学のためには普通高校で学ぶ必要がある。本稿で採り上げた高等学校の美術の教材は、普通高校の内容であり、卒業後は大学に進学したり社会人となったりする。これらの教材はそうした一般的な社会人として習得する美術の内容と想定されている。

これらのことから、インドネシアの高等学校の美術教育の特性として次のようなことが考えられる。

- (1) 表現の教材は中学校のように分野を分けるのではなく、平面と立体に大別して、表現の多様性を促している。そして1学年の最初に造形要素と視覚言語の造形の基礎的能力育成を促す題材が用意されている。
- (2) 各題材の例示作品については、インドネシアの作品と西洋美術の作品、インドネシアの伝統的工芸、現代の映像やオブジェ、野外彫刻など多様な美術に触れるようにしている。西洋美術の影響を受けて200が経過し、西洋美術の影響は未だに大きい、それは模倣の段階から創造の段階になっている。^(注4)つまりグローバル化してきた現在、西洋を主とする美術とインドネシアの独自の美術を例示することによって、多様性の中のインドネシアの自国文化を啓蒙している。
- (3) 高等学校の段階なので、コンピテンシーの育成のためには幅広く捉え、芸術文化全体を学ぶように促している。さらに美術展覧会の開催、美術批評も題材として設定しており、美術教育を受けることによって、社会人一般として教養を身に付けることを促している。

以上のことから、現在のインドネシアの普通高等学校での美術教育は、卒業後に美術の専門家だけではなく、多くの一般的社会人を想定して教育内容が定められている。インドネシアのモットーでもある「多様性の中の統一」を基盤として、美術文化はインドネシアらしさのアイデンティティーの追究途上にあると言える。多様な民族が有する伝統文化を基盤として、そこに西洋文化が影響を及ぼし、文化と文明の近代化が始まった。

1800年の中頃からラデン・サレをはじめとする油絵の具による西洋画の表現方法で、インドネシアの風景画や肖像画を描くことから近代の美術が始まったと言える。それはまさに西洋美術の直接的な反映であった。

その後1900年に入って、インドネシア美術家協会（PERSAGI: Persatuan Ahli-Ahli Gambar Indonesia）が1938年に結成され、西洋美術の積極的な開拓、試行錯誤が始まり、インドネシアの特色を表現することを実践した。その時代にはアフアンディーのように熱帯の情熱を表現した画家が出現してきた。それはいかにも情熱的なタッチによって人物や風景を表しており、熱帯地域を感じさせるものである。シンガポールで南洋様式の作品が追究されたのと同様に、地域の特色を表現することが重視されたと考えられる。そのことが西洋美術の直接的な反映を乗り越えて独自の文化の創作となったのである。^(注5)

このように近代のインドネシアの美術の変遷は、西洋美術との関係が深い。インドネシアが東南アジアに属しており、直接的に西洋諸国に植民地化されたことで、西洋美術との関係が余儀なくされたのである。そうしたアジアの地域が、第二次世界大戦後に次々と独立を果たした結果、独自文化の創造をすることになったのである。アイデンティティーの確立による国民国家の形成である。

こうした背景により、高等学校の美術教育も、インドネシアの美術と西洋の美術を併置して美術の目的、機能、表現方法、個人や社会における美術の役割を修得するために教材が構成されたのである。高等学校卒業後に大学生や社会人となって、美術への関心を深め、美術を通してのコンピテンシーを有効に働かせるために、美術批評や展覧会開催のような題材も用意されていると考えられる。そのことでインドネシアの自国文化を考える機会の提供となっている。

注

- 1 福田隆眞、石井由理 「インドネシアにおける芸術教育と文化形成についてー前期中等教育を中心としてー」、山口大学教育学部附属教育実践センター研究紀要第 55 号 2022
- 2 教科書は以下のものを使用する。
 - Zackaria Soetedja, Dewi Suryati, Milasari, Agus Suprianta, “Seni Budaya X semester 1”, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia, 2018
 - Zackaria Soetedja, Dewi Suryati, Milasari, Agus Suprianta, “Seni Budaya X semester 2”, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia, 2018
 - Sem Cornelyoes Bangun, Siswandi, Tati Narawati, dan Jose Rizal Manua, “Seni Budaya XI semester 1, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia, 2018
 - Sem Cornelyoes Bangun, Siswandi, Tati Narawati, dan Jose Rizal Manua, “Seni Budaya XI semester 2, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia, 2018
 - Agus Budiman, Dewi Suryati Budiwati, Sukanta, dan Zakaria S, Soetedja, ” Seni Budaya XII semester 1”, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia, 2018
 - Agus Budiman, Dewi Suryati Budiwati, Sukanta, dan Zakaria S, Soetedja, Seni Budaya XII semester 2 “, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia, 2018
- 3 Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan, Republik Indonesia Nomor 37 Tahun 2018 tentang Perubahan atas Peraturan Menteri Pendidikan dan Kebudayaan Nomor 24 Tahun 2016 tentang Kompetensi Inti dan Kompetensi Dasar Perajaran pada Kurikulum 2013 pada Pendidikan Dasar dan Pendidikan Menengah (初等中等教育の 2013 年カリキュラムにおける教育のコア・コンピテンシーと基本コンピテンシーの規則改正に関するインドネシア共和国教育文化省規則 2016 年第 24 号を改正するインドネシア共和国教育文化省規則 2018 年の規則第 37 号)
- 4 福田隆眞 「インドネシアにおける美術教育実践のための基礎研究」(山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第 48 号収録) 2019 年 においてインドネシアの近代美術の四層構造を述べ、西洋美術の影響について分析している。
- 5 Hida Soemantri “*Indonesian Heritage Visual Art*”, Archipelago Press, 1998 この文献を参考に概説する。

付記

本稿は以下の文部科学省研究費補助金による研究の一環である。石井由理代表「アジアの芸術教育におけるグローバル化と国民文化形成」(2017 - 2022, 研究種目: 基盤研究 (C), 課題番号: 17K04793)、福田隆眞代表「アジアのグローバル化と芸術教育による独自文化形成の調査研究」(2022 - 2025, 基盤研究 (C), 課題番号 22K02635)。

参考文献

- 福田隆眞: 「アジアにおける近代美術の構造と美術教育」(大学美術教育学会「美術教育学研究」収録), 第54号, 2022年.
- 福田隆眞: 「インドネシアにおける中学校美術教育と独自文化形成について」(大学美術教育学会「美術教育学研究」収録), 第55号, 2023年.